受注しました！

メキシコの財政改善につながる新療法

高齢化に加え、高カロリーな加工食品の普及や、運動量の減少といった生活習慣の変化により、心筋梗塞などの虚血性心疾患の症例が増えつつあるメキシコ。こうした中、今年2月から「TRI法に焦点をあてた低侵襲医療技術の普及プロジェクト」が実施されている。日本から現地のサポートを行っている（株）ティーエーネットワーキングの金子達也氏に、協力の内容を聞いた。

（株）ティーエーネットワーキング
金子 達也氏

虚血性心疾患の治療法の一つとして、カテーテルと呼ばれる管を血管に通し、狭くなった部分を膨らませるカテーテル治療という手法がある。胸を開かずに局所麻酔で手術することができるため、メキシコでも広く使われている。しかし、メキシコでは、足の付け根からカテーテルを通す「TFI法」という手法が主流だ。これは、術後に長時間起き上がることができない上、再出血などによる合併症の危険性が高く、患者に肉体的・精神的負担を強いてしまう。また、同国では人々の医療費を国が負担しているため、長期の入院や合併症による追加の治療などは、財政を圧迫する原因にもなる。

そのため、本プロジェクトでは、こうした負担を軽減する低侵襲治療として、カテーテルを手首から通す「TRI法」の普及を目指している。TRI法であれば、手術したその日に帰宅することも可能だ。だが、より緻密な技術が求められるため、普及には医療従事者への技術研修が必要となる。そこで、われわれは現在、国立循環器センターに心臓分野の専門医および専門修練医（専修医）を対象とした研修室を設置する計画を進めている。今は、5月から始まる研修に向け、日本から機材の輸送やプロジェクト全体の調整を行うなどして、サポートしているところだ。またこの計画には、テルモ（株）も機材供与などの形で参画している。テルモは、2011年から国際協力機構（JICA）と連携して同国におけるTRI法の普及に取り組んでおり、11年と12年には計13人の医師を対象に本邦研修を行った。こうした取り組みは、今回のプロジェクトを実施するきっかけともなっており、日本で研修を受けた医師らで編成された技術チームは、研修室の設置や運営にも携わっている。

熱心に講義を聞く医師たち

研修が順調に進めば、次なるステップとして、専門医になるためのコースにTRI法のコースを追加するなど、同国の医療制度にTRI法を導入したいと考えている。さらには、同国との南南協力として、同国を拠点に周辺の中南米諸国へTRI法を普及させる取り組みも視野に入れている。

メキシコでは、医療制度がすでにある程度の水準まで整備されている。さらに、幅広い医療課題を抱えているため、TRI法の優先度は必ずしも高いわけではないのも事実だ。そのため、どれだけ既存の制度に入り込むことができるかは未知数だが、国の財政を改善する可能性を秘めたTRI法導入への挑戦は、まだ始まったばかりである。まずは人材育成に取り組み、こうした青写真の実現へとつなげていきたい。